

学長候補者の決定について

国立大学法人愛媛大学学長選考・監察規程第8条第1項の規定に基づき、学長候補者を決定したので、下記のとおり公表する。

記

1 学長候補者 に しな ひろ しげ
仁 科 弘 重

任期：3年間（令和6年4月1日から令和9年3月31日まで）

2 選考理由

学長選考・監察会議は、国立大学法人愛媛大学学長選考基準に定める「学長に求められる資質・能力」に照らし、候補適任者 仁科 弘重 氏（現 国立大学法人愛媛大学長）について、推薦書並びに経歴書及び所見の書面審査とともに、面接を行った。

同氏は、これまで、教育者・研究者としての実績と大学経営のマネジメントに係る豊富な知識と経験をもとに、地域の国立大学である愛媛大学が果たすべき役割や今後取り組むべき課題など、将来を見据えた明確なビジョンを示し、その実現のために優れた組織推進力・調整力と継続して強いリーダーシップを発揮している。具体的には、大学院「医農融合公衆衛生学環」・「地域レジリエンス学環」の設置、大学院理工学研究科の改組や、文部科学省等大型事業「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」及び「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援」を獲得することにより、社会が求める高度人材育成の推進、研究機能強化等の大学改革を推進してきた。また、長年にわたる社会連携・地域連携活動において構築してきた県内の幅広い方面のステークホルダーとの繋がりを基盤として、直近では、愛媛県とのデジタル人材育成の連携協定を締結し、地域のデジタル人材育成に、産官学連携で取り組むなど、地域社会の課題解決に資する地域貢献を推進している。学内運営においては、教職員との対話に基づいて多様な活動を支え、社会的信頼に応える強靱なガバナンス体制の構築や、人事給与マネジメントの強化により女性教員や女性管理職、若手教員や外国人教員など優秀で多様な人材の確保に取り組んでいる。特に、ダイバーシティの推進のために、ダイバーシティ担当副学長の任用、「学長戦略・若手教員等ポジティブ・アクション事業」などを実施した。これらの多面的な実績が高く評価され、全ての学部が同氏を学長候補適任者として推薦している。

社会の先行きが不透明で将来の予測が困難な状態（VUCA 時代）をむかえ、地方国立大学を取り巻く状況がより厳しくなることが必至のなかにあっても、同氏は、学内外における対話を重視しながら、未来思考と柔軟性を備え、強いリーダーシップとマネジメント力を発揮し、愛媛大学を持続可能な更なる発展に導くことが期待できる人物であるといえる。

したがって、国立大学法人愛媛大学学長選考基準に定める「学長に求められる資質・能力」に掲げた5つの資質・能力を満たしていると判断し、同氏を次期学長候補に決定した。

3 選考過程

令和5年1月24日	学長選考・監察会議は、学長に求められる資質・能力及び学長選考の手続き・方法について基準を定め公表した。
令和5年5月15日	学長選考・監察会議は、学長候補者の選考について公表した。 学長選考・監察会議は、各学部へ候補適任者の推薦を依頼した。
令和5年8月4日	学長選考・監察会議は、各学部から候補適任者1名の推薦を受け、推薦書、経歴書、受諾書及び所見を受理した。 なお、職員30人以上の連署による推薦及び学長選考・監察会議による候補適任者の選出はなかった。 学長選考・監察会議は第一次選考を行い、1名を候補適任者として選考し、公表した。
令和5年9月21日	学長選考・監察会議は、候補適任者に面接を行った上で、推薦書、経歴書及び所見（別添のとおり）の内容等を総合的に判断し、学長候補者を決定、公表した。

以上

令和5年9月21日

愛媛大学学長選考・監察会議

推 薦 書

愛媛大学学長選考・監察会議議長 殿

推 薦 書

学部名 法文学部

<p style="text-align: center;">ふりがな 学長候補適任者氏名</p>	<p style="text-align: center;">に しな ひろ しげ 仁 科 弘 重</p>
<p style="text-align: center;">職 名</p>	<p style="text-align: center;">国立大学法人愛媛大学長</p>
<p>推薦理由（800字以内）</p> <p>仁科弘重氏は、昭和61年3月に愛媛大学農学部に助教授として着任後、平成10年4月に農学部教授に昇任し、平成23年4月から4年間、農学部長を務められました。平成27年4月から6年間、愛媛大学理事・副学長、社会連携推進機構長を務められた後、令和3年4月から愛媛大学長に就任され、現在に至っております。研究者としても卓越した業績を上げ、現在、日本学術会議会員であり、農学委員会委員長等を務めておられます。</p> <p>学長就任後、仁科氏は、卓越したリーダーシップを発揮し、大学院「医農融合公衆衛生学環」及び「地域レジリエンス学環」の設置や文部科学省等の大型事業への申請等、積極的に大学の機能強化に取り組んでこられました。また、ダイバーシティ推進本部長に自ら就任し、「愛媛大学ダイバーシティ推進ステートメント」等を策定し、ダイバーシティに関する愛媛大学の基本的な姿勢を学内外に発信してこられました。さらに、大学運営にあたっては、学長直轄の総合戦略府を設置する一方、各学部との意見交換等を行い、大学構成員との対話を重視してこられました。新型コロナウイルス感染症対策についても、自らが大きく舵取りを行い、感染者数を最小限に抑えながら大学運営を続けることに成功されました。</p> <p>仁科氏は、全世代対応型の「地域における知の拠点」という今後の愛媛大学が目指すべき方向性を明確にし、文系から理系までの幅広い学術領域をカバーする総合大学としての愛媛大学が果たすべき役割を追求しておられます。法文学部としても、公開シンポジウム「地域と学術研究－愛媛大学の文系研究最前線－」の開催のように、文系学問への理解と配慮をいただいているところです。</p> <p>これまでの実績を踏まえれば、仁科氏が、学長に求められる資質と能力を十分に備えておられることは明らかです。愛媛大学をさらなる発展へと牽引していただきたく、仁科弘重氏を次期学長候補適任者としてご推薦いたします。</p>	

備考 「職名」欄：現職名（必要に応じ、元職名）を記入する。

愛媛大学学長選考・監察会議議長 殿

推 薦 書

学部名 教育学部

ふりがな 学長候補適任者氏名	に しな ひろ しげ 仁 科 弘 重
職 名	愛媛大学 学長
推薦理由（800字以内） 仁科弘重氏は、昭和61年の着任以来、農学部長、大学理事・副学長、社会連携推進機構長等を歴任され、令和3年からは学長として大学運営に尽力されています。 とくに学長就任後は、大学院「医農融合公衆衛生学環」「地域レジリエンス学環」の設置など、地域の重要課題に対応できる人材育成の仕組みを整えられたほか、ダイバーシティ担当副学長の配置、「学長戦略・若手教員等ポジティブ・アクション事業」などの実施、ジェンダー協働推進センターの設置といった、全学におけるダイバーシティの推進や、学長・理事と各学部との意見交換、誰もが参加できる「キャンパスミーティング」、「半変人の会」といった機会を積極的に設けるなど、さまざまな立場の構成員の意見に耳を傾けながら、地域における知の拠点として存在し続ける愛媛大学をめざし、全学体制で臨むことができるような素地を作られました。さらに、コロナ禍においては、ワクチンの大学拠点接種の実施や、学長メッセージの発出等で、危機対応におけるリーダーシップを発揮されました。 教育学部では、地域人材育成の要となる教員育成や教員研修の高度化を目指し、令和6年度は学部コース再編、教職大学院の1年履修プログラムの実施、地域創生教育プログラムの開始などを予定しています。今後も教育委員会等のステークホルダーとの連携を強化し、愛媛大学が地域に必要とされる大学であり続けるために、全学とともに進んでいく所存です。 国立大学法人の置かれている状況が厳しさを増している現在、地方国立大学の将来のありかたについての明確なビジョンを持ち、幅広い学術領域で構成される総合大学としての強みを生かそうとされる仁科弘重氏に引き続きリーダーシップを発揮していただくことが、愛媛大学には必要だと考えます。教育学部及び教育学部附属学校園は、今後の愛媛大学のさらなる発展のために、仁科弘重氏を次期学長候補適任者として推薦いたします。	

備考 「職名」欄：現職名（必要に応じ、元職名）を記入する。

令和5年7月24日

愛媛大学学長選考会議議長 殿

推 薦 書

学部名 社会共創学部

学長候補適任者氏名 ふりがな	にしな ひろしげ 仁 科 弘 重
職 名	愛媛大学学長
推薦理由 (800字以内)	
<p>本学部は、現学長の仁科弘重氏を、次期学長候補適任者として、以下のとおり推薦する。</p> <p>同氏は、令和3年4月より学長としてリーダーシップを発揮し、愛媛大学の長期ビジョンと第4期中期目標・中期計画の策定や管理運営を精力的に牽引するなど、多くの実績を残している。(1)教育・人材育成においては、大学院「医農融合公衆衛生学環」「地域レジリエンス学環」の設置、愛大学生コンピテンシーの見直し、「未来思考支援科目」の開講、四国5国立大学の「連携教職課程」の開設など、教育改革を進められている。(2)組織活性化を図るための、総合戦略府の設置、学長室機能の強化、ダイバーシティの推進、構成員との対話の実施は特筆すべきである。(3)大型事業として「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」の採択、「大学・高専機能強化支援事業」の採択など、大学戦略に沿って具体的な施策を着実に展開している。</p> <p>少子化や科学技術の発展、地域振興への対応のために、愛媛大学は限られた大学リソースをうまく持続的に活用し、特色のある教育研究機能を持つ知の拠点として進化していくことが重要であり、そのための具体的な計画や施策が一層求められている。</p> <p>同氏は文系、理系学部における教育の特徴を緻密に把握し、バランスよく総合大学のメリットを活かして全世代対応型の大学づくりを提唱している。また、組織活性化を図るための、機構の組織再編、業務内容の見直し、DXの推進などの構想も発表している。さらに、各機構・部局との円滑なコミュニケーションにより、大学の目標共有、意思疎通が図られている。</p> <p>以上のように、同氏の長年にわたる大学中枢での実績を踏まえ、求められる学長としての資質を十分有しているものと判断する。そして、次年度以降も大学の管理最高責任者のみならず、教職員のリーダーとして、愛媛大学のより一層の発展を導いていただきたい。</p>	

愛媛大学学長選考・監察会議議長 殿

推 薦 書

学部名 理学部

<p style="text-align: center;">ふりがな 学長候補適任者氏名</p>	<p style="text-align: center;">にしな ひろしげ 仁科 弘重</p>
<p style="text-align: center;">職 名</p>	<p style="text-align: center;">国立大学法人愛媛大学 学長</p>
<p>推薦理由（800字以内）</p> <p>仁科弘重氏は、昭和61年3月愛媛大学農学部に着任後、平成10年4月から農学部教授、平成23年4月から農学部長、平成27年4月から理事・副学長・社会連携推進機構長を歴任し、令和3年4月より学長に就任されております。</p> <p>平成23年の農学部長就任以降、仁科氏は大学運営において多大な実績を上げておられます。平成28年の農学部・農学研究科の改組においては、3学科・3専攻への再編を農学部長として実行しました。平成27年から6年間にわたり、理事・社会連携推進機構長として、県内全20市町との連携協力協定の締結をはじめ、地域協働センター西条・南予・中予、地域密着型文系研究センター、地域専門人材育成・リカレント教育支援センター開設を主導しました。</p> <p>学長に就任した令和3年以降も、コロナ感染症対策において対面授業と遠隔授業のベストバランスを整え、学生・教職員を対象としたワクチンの集団予防接種を実施するなど指導力を発揮してきました。愛大学生コンピテンシーの見直し、四国5国立大学連携による「連携教職課程」の開設、「医農融合公衆衛生学環」「地域レジリエンス学環」の設置、を進めてきました。また、地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業申請・採択（約20億円）、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業申請（約55億円）、高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援申請・採択（約10億円）と文部科学省主導の大型事業の予算獲得も主導してきました。</p> <p>このように、仁科弘重氏は大学運営の機能強化や環境整備に優れた指導力と実行力で着実に実績をあげ、また今後の大学運営に明確なビジョンを持っておられることから、国立大学法人愛媛大学学長選考基準に定める、学長に求められる資質・能力を備えた人物であり、本学の更なる発展にとって不可欠であると確信し、理学部は次期学長候補適任者として推薦いたします。</p>	

備考 「職名」欄：現職名（必要に応じ、元職名）を記入する。

令和5年7月24日

愛媛大学学長選考・監察会議議長 殿

推 薦 書

学部名 医学部

ふりがな 学長候補適任者氏名	にしな ひろしげ 仁科 弘重
職 名	愛媛大学 学長
<p>推薦理由（800字以内）</p> <p>仁科氏は、平成27年4月に社会連携・渉外担当（平成30年4月からは社会連携・企画担当）の理事・副学長及び社会連携推進機構長として、外部機関との調整・交渉でその手腕を発揮し、令和3年4月に愛媛大学学長に就任されました。また、平成29年10月より日本学術会議会員を務められ、政府への政策提言も行っておられます。</p> <p>仁科氏は、令和4年度からの第4期中期目標において、「少子化、高齢化、地球環境問題の深刻化という中長期的課題に加えて、Withコロナ社会における価値観や社会システムの再構築という新たな課題に、全学を挙げて取り組む。また、大学も社会の変化とともに機能や社会的役割を変容させる必要があることを認識し、組織としてのダイバーシティを推進する。さらに、全世代対応型の『地域における知の拠点』としての多機能化を図り、Sustainableな社会、Resilientな地域社会の構築に貢献する」を掲げ、確実に同目標に向けた歩みを進めていると考えております。また、医農融合公衆衛生学環、地域レジリエンス学環の設置により、地域ニーズに応えるための支援体制を構築されました。更に、地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業、高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援の大型予算獲得に成功しており、優れたマネジメント力を発揮されています。</p> <p>現在、医学部・附属病院では、将来に向けた再開発プランを構築中であり、「愛媛を支える医療人の育成」、「医学による愛媛の地域共創」、「世界とつながる医学部」の実現に向け、仁科氏のご指導とご支援のもと、改革を推進したいと考えております。</p> <p>このように、仁科氏は、学長に求められる資質・能力を備えた人物です。医学部は、仁科弘重氏が、愛媛大学が更なる発展を遂げるためのリーダーとして最適であると確信し、次期学長候補適任者としてここに推薦致します。</p>	

備考 「職名」欄：現職名（必要に応じ、元職名）を記入する。

令和5年7月24日

愛媛大学学長選考・監察会議議長 殿

推 薦 書

学部名 工学部

<p style="text-align: center;">ふりがな 学長候補適任者氏名</p>	<p style="text-align: center;">にしな ひろしげ 仁科 弘重</p>
<p style="text-align: center;">職 名</p>	<p style="text-align: center;">国立大学法人愛媛大学長</p>
<p>推薦理由（800字以内）</p> <p>仁科弘重学長は、令和3～5年度の在任期間中、学長としてのリーダーシップとマネジメント力により、大学の管理運営面では、総合戦略府の設置や女性副学長（ダイバーシティ担当）の選任、地域と本学をつなぐE. U. Regional Commonsの新営、また、教職員との意見交換会など「地域における知の拠点」として社会の変化やステークホルダーの期待に応えるべく取組まれています。</p> <p>また、大学の教育・研究面では、令和4年度には、全国初の医農融合による「医農融合公衆衛生学環」を設置、令和5年度には「地域レジリエンス学環」の新設及び高度理工系人材の育成を目指した「理工学研究科」の改組を指導的な立場で実施されました。更に、挑戦的な補助金の獲得に向けて、計画策定の段階から強いリーダーシップを発揮されています。具体的には、文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に採択され、四国における持続的食料生産を目指した研究体制の強化のための施設整備費が獲得できています。また、未来のえひめを創るデジタル情報人材育成のために、理工学研究科及び工学部の機能強化に係る基金申請においても強いリーダーシップを発揮されています。</p> <p>第4期中期目標・中期計画においては、工学部のエンジニアリングモールド2.0計画も含めた「愛媛大学独自の中期計画に準ずる計画」を策定され、工学部の地域貢献の取組に対しても支援を賜っています。</p> <p>このように、仁科弘重学長は、地域のステークホルダー・学生・教職員の意見を聴き、優れた指導力と実行力により着実に実績をあげられており、学長に求められる資質・能力を兼ね備えた人物です。愛媛大学が更に発展するためには不可欠な存在であると確信しております。仁科弘重学長には、引き続き本学を牽引していただきたく、工学部は仁科弘重学長を次期学長候補適任者の候補者として推薦いたします。</p>	

備考 「職名」欄：現職名（必要に応じ、元職名）を記入する。

令和5年7月24日

愛媛大学学長選考・監察会議議長 殿

推 薦 書

学部名 農学部

ふりがな 学長候補適任者氏名	にしな ひろしげ 仁科 弘重
職 名	国立大学法人愛媛大学 学 長
<p>推薦理由（800字以内）</p> <p>仁科弘重氏は、昭和61年に愛媛大学農学部着任後、平成10年から農学部教授、平成23年から農学部長、平成27年から愛媛大学理事・副学長、社会連携推進機構長を歴任し、令和3年に愛媛大学学長に就任されました。専門分野は、緑化感性工学、生物環境調整学、環境制御学で、平成29年から日本学術会議会員、令和5年から一般社団法人国立大学協会理事を務めておられます。</p> <p>仁科氏は、このような経歴の中で、常に、時代に即した的確な判断を行い、傑出した成果をあげてこられました。なかでも、農学部長としての「農学部・農学研究科の改組」、理事・副学長、社会連携推進機構長としての「県内全20市町との連携協定の締結」「地域協働センター（西条・南予・中予）、地域密着型文系研究センター、地域専門人材育成・リカレント教育支援センターの設置」「COC・COC+事業の実施」などは、現在の愛媛大学および農学部の維持、発展の強力な基盤となっています。さらに、愛媛大学学長への就任後は「文部科学省等大型事業の採択（地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業など）」「大学院医農融合公衆衛生学環、地域レジリエンス学環の設置」「ダイバーシティ推進（ダイバーシティ担当副学長の配置など）」「愛大学生コンピテンシーの見直しと、未来思考支援科目の開講」をはじめとする、愛媛大学の将来を見据えた様々な先進的な取り組みを、強いリーダーシップを発揮して実現されました。さらに「キャンパスミーティング」などを通じて、構成員の意識、意向にきめ細やかに配慮する姿勢も高く評価されます。</p> <p>以上より、農学部は、仁科弘重氏が、学長に求められる資質・能力を十分に備えた人物であり、全世代対応型の「地域における知の拠点」として、愛媛大学および農学部が更なる発展を遂げるための次期学長に最も適任な人物と確信し、次期学長候補適任者として推薦いたします。</p>	

備考 「職名」欄：現職名（必要に応じ、元職名）を記入する。

經 歷 書

平成 27	4	愛媛大学理事・副学長（社会連携・渉外担当）、社会連携推進機構長 （平成30年3月まで）
平成 28	4	愛媛大学大学院農学研究科教授 （組織変更のため：令和3年3月まで）
平成 29	10	日本学術会議会員（※）（内閣総理大臣からの辞令：現在に至る）
平成 30	4	愛媛大学理事・副学長（社会連携・企画担当）、社会連携推進機構長 （令和3年3月まで）
令和 2	6	一般社団法人えひめベンチャー支援機構代表理事 （令和3年10月まで）
令和 3	4	愛媛大学学長（現在に至る）
令和 5	3	愛媛県ユニセフ協会会長（現在に至る）
令和 5	4	一般社団法人国立大学協会理事（現在に至る）
<p>※：会員（第二部）、農学委員会委員長、農業生産環境工学分科会委員長、地域総合農学分科会委員、C I G R分科会委員 他</p>		

業 績

学会活動：

日本生物環境工学会・会長（平成31年1月～令和2年12月）

受賞歴：

平成 5年 10月	日本植物工場学会・学術奨励賞
平成 6年 1月	日本植物工場学会・論文賞
平成 12年 8月	日本生物環境調節学会・学会賞
平成 21年 5月	日本農業工学会・フェロー
平成 21年 9月	日本生物環境工学会・論文賞
平成 22年 9月	日本生物環境工学会・フェロー
平成 24年 9月	日本生物環境工学会・功績賞
平成 25年 2月	愛媛県政発足記念日知事表彰

業績（学術論文） 別紙のとおり

(経歴書) 別紙

業 績 (学術論文)

仁 科 弘 重

- 1) T. Takakura and H. Nishina, A solar greenhouse with phase change energy storage and a microcomputer control system, *Acta Horticulturae*, 115(II), 583-590, 1981
- 2) T. Takakura, H. Nishina and K. Kurata, A simulation analysis of solar greenhouses with underground heat storage units, *Proceedings of the Second International Seminar on Energy Conservation and the Use of Renewable Energies in the Bio-industries*, Pergamon Press, 634-639, 1982
- 3) 仁科弘重, 高倉 直, 潜熱蓄熱材の特性試験と小型温室における暖房実験, *農業気象*, 39(3), 201-211, 1983
- 4) 仁科弘重, 高倉 直, 竹田武司, 町田育彦, 空気集熱方式による模型温室の暖房実験, *農業気象*, 39(4), 311-314, 1984
- 5) H. Nishina and T. Takakura, Greenhouse heating by means of latent heat storage units, *Acta Horticulturae*, 148(II), 751-754, 1984
- 6) 仁科弘重, 高倉 直, 実用規模温室での暖房実験, *農業気象*, 40(4), 313-321, 1985
- 7) H. Nishina and T. Takakura, Solar-heating greenhouses by means of latent heat storage units, *Proceedings of the International Symposium on Thermal Application of Solar Energy*, International Solar Energy Society, 543-545, 1985
- 8) 橋本 康, 丹生谷 太, 易 佑林, 仁科弘重, 安西良矩, 山崎広義, 中山繁樹, 池田 彰, パルス光照射光源によるサラダナの光合成特性, *生物環境調節*, 25(3), 127-129, 1987
- 9) Y. Hashimoto, Y. Yi, T. Morimoto, F. Nyunoya, H. Nishina and Y. Nakane, Pilot chamber for the identification of the growth process in a vegetable factory, *Selected Papers from the 10th Triennial World Congress of the International Federation of Automatic Control*, Pergamon Press, 333-338, 1987
- 10) 羽藤堅治, 仁科弘重, 近泉惣次郎, 橋本 康, ミカン病虫害診断エキスパートシステム, *生物環境調節*, 26(4), 185-186, 1988
- 11) H. Nishina, T. Takakura and Y. Hashimoto, Solar heating of a commercial greenhouse by means of latent heat storage, *Acta Horticulturae*, 230, 555-558, 1988
- 12) K. Hatou, H. Nishina and Y. Hashimoto, Computer integrated agricultural production, *Proc. of 11th IFAC World Congress*, 281-285, 1990
- 13) K. Hatou, H. Nishina and Y. Hashimoto, Tomato cultivating support system based on computer integrated agricultural production (CIAP), *Proceedings of the 3rd International Congress for Computer Technology*, 100-107, 1990

- 14) 浅海英記, 仁科弘重, 福山寿雄, 橋本 康, 植物が室内環境に及ぼすグリーンアメニティー効果のシミュレーションによる検討, 植物工場学会誌, 3(1), 31-38, 1991
- 15) H. Nishina, I. H. Cho and Y. Hashimoto, Two approaches to environmental control in greenhouses -Heat balance analysis and system identification in heating system with heat pump-, Proceedings of the IFAC/ISHS Workshop on Mathematical and Control Applications in Agriculture and Horticulture, Pergamon Press, 63-66, 1991
- 16) 趙 日燠, 仁科弘重, 田中基司, 橋本 康, 自然光利用型植物工場の夏期昼間の局所冷房—トマトの尻腐れとの関連も含めて—, 植物工場学会誌, 4(1), 30-39, 1992
- 17) T. Morimoto, H. Nishina, Y. Hashimoto and H. Watake, Sensor for ion-control -An approach to control of nutrient solution in hydroponics-, Acta Horticulturae, 304, 301-308, 1992
- 18) H. Nishina, M. Miyoshi and Y. Hashimoto, Optimal environmental condition for carnation cultivated in nursery plants system, Acta Horticulturae, 319(I), 313-316, 1992
- 19) 浅海英記, 仁科弘重, 増井典良, 橋本 康, アメニティー植物の蒸散量、気孔抵抗および遮光率の測定, 植物工場学会誌, 4(2), 131-138, 1993
- 20) 青野忠勝, 仁科弘重, 渡部憲幸, 松本 文, 高床式開放鶏舎における除糞による環境改善効果, 生物環境調節, 31(1), 37-42, 1993
- 21) 仁科弘重, 青野忠勝, 浅海英記, 高床式開放鶏舎における除糞の環境改善効果のシミュレーションによる検討, 生物環境調節, 31(2), 81-85, 1993
- 22) 仁科弘重, 松本 文, 橋本 康, システム同定による温室内温度環境の解析, 生物環境調節, 31(4), 189-195, 1993
- 23) 仁科弘重, 趙 日燠, 田中基司, 橋本 康, 果実送風によるトマト尻腐れ発生防止とそのメカニズムの解明, 植物工場学会誌, 5(1), 26-38, 1993
- 24) 青野忠勝, 仁科弘重, 渡部憲幸, 高床式開放鶏舎における除糞機の開発に関する研究 (I) けん引性能と除糞効率, 農業施設, 24(4), 231-239, 1994
- 25) 青野忠勝, 仁科弘重, 脇岡健次, 渡部憲幸, 冬期における高床式開放鶏舎内環境の測定, 生物環境調節, 32(4), 225-229, 1994
- 26) 浅海英記, 仁科弘重, 塚西 圭, 増井典良, 橋本 康, 観葉植物が室内の温熱環境および温熱快適性に及ぼす影響—冬期における実験による解析—, 日本建築学会計画系論文集, 464, 39-16, 1994
- 27) H. Nishina, T. Morimoto and Y. Hashimoto, Identification of plant production system based on neural networks, Proceedings of the First Asian Control Conference, Vol.3, 13-16, 1994
- 28) H. Nishina, I. Cho and Y. Hashimoto, Zone cooling system in greenhouse automation, Proceedings of the First Asian Control Conference, Vol.2, 17-20, 1994
- 29) 浅海英記, 仁科弘重, 難波亮子, 増井典良, 橋本 康, 観葉植物の印象の評価, および, 観葉

- 植物を配置した室内の居住者心理のSD法による評定, 植物工場学会誌, 7(1), 34-45, 1995
- 30) 浅海英記, 仁科弘重, 中村博文, 増井典良, 橋本 康, 観葉植物を見ることがVDT作業に伴う視覚疲労に及ぼす影響, 植物工場学会誌, 7(3), 138-143, 1995
- 31) 仁科弘重, 中村博文, 浅海英記, 増井典良, 橋本 康, 植物を配置した室内の温熱環境・快適性の予測モデルの作成, 生物環境調節, 33(4), 277-284, 1995
- 32) H. Asaumi, H. Nishina and Y. Hashimoto, Studies on amenity of indoor plants, *Acta Horticulturae*, 391, 111-118, 1995
- 33) H. Nishina, M. Tanaka and Y. Hashimoto, Optimum system of zone cooling in greenhouse, *Acta Horticulturae*, 399, 149-155, 1995
- 34) H. Nishina, Y. Hashimoto and A. Matsumoto, Identification and control of air temperature in greenhouse systems, *Acta Horticulturae*, 406, 29-37, 1996
- 35) H. Nishina, M. Ohtsuka, K. Umakoshi and Y. Hashimoto, Experimental analysis of influence of air temperature, ventilation and shading on cooling load and CO₂ concentration in zone cooling system in greenhouse, *Acta Horticulturae*, 440, 245-250, 1996
- 36) H. Nishina, K. Yoshida, N. Masui and Y. Hashimoto, Storage of tomato seedling plant plugs under faint irradiation and low temperature, *Acta Horticulturae*, 440, 268-273, 1996
- 37) H. Nishina, K. Umakoshi and Y. Hashimoto, Control of air temperature in nursery plants production system by LQI control with Kalman filter, Preprints of the 3rd IFAC Workshop on Mathematical and Control Applications in Agriculture and Horticulture, Pergamon, 13-18, 1997
- 38) T. Aono, H. Nishina, N. Watanabe and Y. Hashimoto, Ammonia control by removing manure in open type poultry house, Proceedings of the International Symposium on Ammonia and Odour Control from Animal Production Facilities (Volume I), 311-316, 1997
- 39) H. Nishina, T. Aono, K. Maruyama and Y. Hashimoto, Ammonia control by ventilation in semi-closed type poultry house, Proceedings of the International Symposium on Ammonia and Odour Control from Animal Production Facilities (Volume II), 627-630, 1997
- 40) 仁科弘重, 中本有美, 渡森 里, 増井典良, 橋本 康, 観葉植物が人間の心理に及ぼすアメニティ効果の脳波およびSD法による解析, 植物工場学会誌, 10(2), 65-69, 1998
- 41) 仁科弘重, 吉田 孝, 長友亨治, 三好正直, 橋本 康, ロックウール粒状綿を利用した養液栽培システムにおける高糖度トマト生産(第1報)水切り下における植物生体情報の測定と解析, 植物工場学会誌, 10(2), 113-118, 1998
- 42) 仁科弘重, 中本有美, 観葉植物、花、香りが人間に及ぼす生理・心理的効果の脳波およびS

- D法による解析, 日本建築学会計画系論文集, 509, 71-75, 1998
- 43) 中本有美, 仁科弘重, 増井典良, 橋本 康, 衝立の代わりに用いた観葉植物が人間の心理に及ぼすアメニティ効果の解析, 植物工場学会誌, 11(2), 136-139, 1999
 - 44) 仁科弘重, 川西高司, 観葉植物が室内の温熱環境および温熱快適性に及ぼす影響—春期, 夏期における実験による解析—, 生物環境調節, 37(1), 73-81, 1999
 - 45) 仁科弘重, グリーンアメニティに関する研究, 生物環境調節, 38(4), 285-288, 2000
 - 46) 中本有美, 仁科弘重, 橋本 康, 観葉植物、イミテーションプランツ、写真の違いが人間の心理に及ぼすアメニティ効果の解析, 生物環境調節, 39(3), 167-173, 2001
 - 47) 仁科弘重, 河野信一郎, 山本志穂, 長友亨治, ロックウール粒状綿を利用した養液栽培システムにおける高糖度トマト生産(第2報) ロックウールの水分量、pF、種類がトマトの蒸散量に及ぼす影響の解析, 植物工場学会誌, 14(4), 197-203, 2002
 - 48) 乗松貞子, 仁科弘重, 家串香奈, 植物を育てるプロセスにおける高齢者の心理状態の脳波およびSD法による解析—若年者との比較も含めて—, 植物環境工学, 18(2), 97-104, 2006
 - 49) 高山弘太郎, 石神靖弘, 後藤英司, 久枝和昇, 仁科弘重, 大規模ガラス温室内のトマト群落におけるクロロフィル蛍光パラメータ(Fv/Fm)、SPAD 値およびクロロフィル濃度の垂直分布の解析, 植物環境工学, 18(4), 277-283, 2006
 - 50) K. Hatou, K. Hisaeda, M.S. Baloch, T. Morimoto and H. Nishina, The model for non-destructive measurement of tomato leaf area, *Environmental Control in Biology*, 44(3), 173-179, 2006
 - 51) 久枝和昇, 仁科弘重, 大規模トマト生産温室における生産性向上に関する研究—積算日射量に基づいたトマトの出荷量予測—, 植物環境工学, 19(1), 11-17, 2007
 - 52) 久枝和昇, 高山弘太郎, 仁科弘重, 東 幸太, 有馬誠一, 大規模トマト生産温室における生産性向上に関する研究—トマト群落における光強度とCO₂固定量の垂直分布の解析—, 植物環境工学, 19(1), 19-26, 2007
 - 53) K. Takayama, Y. Sakai, H. Nishina and K. Omasa, Chlorophyll fluorescence Imaging at 77K for Assessing the Heterogeneously Distributed Light Stress Over a Leaf Surface, *Environmental Control in Biology*, 45(1), 39-46, 2007
 - 54) S. Norimatsu, H. Nishina, K. Nozaki and K. Takayama, Analysis of the psychological state of elderly people in the process of raising plants from seedlings and bulbs by means of brain waves and the semantic differential technique -Including comparison with young people-, *Environmental Control in Biology*, 45(3), 143-153, 2007
 - 55) 高山弘太郎, 仁科弘重, 坂井義明, クロロフィル蛍光画像計測法によるハイゴケ(*Hypnum plumaeforme*)の光合成機能解析, *Eco-Engineering*, 19(1), 49-57, 2007
 - 56) 高山弘太郎, 仁科弘重, 成原貴博, 長野洋文, 高倉 直, クロロフィル蛍光計測法によるシバ(*Zoysia matrella* Marr.)群落の光合成速度の定量評価, *Eco-Engineering*, 19(2), 95-101, 2007

- 57) 高山弘太郎, 仁科弘重, 施設園芸における植物診断のためのクロロフィル蛍光画像計測, 植物環境工学, 20(3), 143-151, 2008
- 58) 仁科弘重, グリーンアメニティの心理的効果に関する最近の研究, 植物環境工学, 20(4), 236-241, 2008
- 59) K. Takayama, H. Nishina and Y. Sakai, Detection of water stress induced photosynthetic dysfunction in tomato plant leaf with PRI measurement, *Acta Horticulturae*, 801(2), 1213-1219, 2008
- 60) 高山弘太郎, 仁科弘重, 山本展寛, 羽藤堅治, 有馬誠一, デジタルカメラを用いた投影面積モニタリングによるトマトの水ストレス早期診断, 植物環境工学, 21(2), 59-64, 2009
- 61) K. Takayama and H. Nishina, Chlorophyll fluorescence imaging of the chlorophyll fluorescence induction phenomenon for plant health monitoring, *Environmental Control in Biology*, 47(2), 101-109, 2009
- 62) 高山弘太郎, 仁科弘重, 大泉喬子, 有馬誠一, 羽藤堅治, 弱光励起クロロフィル蛍光インダクション画像計測による光阻害の検知, *Eco-Engineering*, 21(2), 69-74, 2009
- 63) T. Takakura, C. Kubota, S. Sase, M. Hayashi, M. Ishii, K. Takayama, H. Nishina, K. Kurata, G.A. Giacomelli, Measurement of evapotranspiration rate in a single-span greenhouse using the energy-balance equation, *Biosystems Engineering*, 102, 298-304, 2009
- 64) 仁科弘重, 太陽光利用型植物工場の知能化のための Speaking Plant Approach 技術, 学術の動向, 15(6), 62-70, 2010
- 65) 高山弘太郎, 仁科弘重, 久枝和昇, 末岐 剛, 原田 聰, 太陽光利用型植物工場のトマト群落における光合成機能の空間分布の解析, 植物環境工学, 22(4), 175-180, 2010
- 66) 仁科弘重, 太陽光利用型植物工場の知能化のための Speaking Plant Approach 技術 (小特集: 農業生産技術の将来展望), 日本機械学会誌, 113(1100), 547-549, 2010
- 67) 有馬誠一, 仁科弘重, 羽藤堅治, 高山弘太郎, 上加裕子, 岡 侍秀, 知的植物工場における植物生育診断ロボットの開発, ロボティクス, メカトロニクス講演会講演概要集, 2010, 1A1-B04, 2010
- 68) 坂井義明, 高山弘太郎, 仁科弘重, クロロフィル蛍光計測によるトマト接ぎ木セル苗の光合成機能診断, 植物環境工学, 23(3), 101-106, 2011
- 69) K. Takayama, Y. Sakai, T. Oizumi and H. Nishina, Assessment of photosynthetic dysfunction in a whole tomato plant with chlorophyll fluorescence induction imaging, *Environmental Control in Biology*, 48(4), 151-159, 2011
- 70) 三並めぐる, 仁科弘重, 續木寛子, 高山弘太郎, 教室内に植物を置くことおよび植物を育てることが高校生の心理に及ぼす効果の解析, *Eco-Engineering*, 23(2), 47-55, 2011
- 71) 三並めぐる, 仁科弘重, 古谷朋子, 高山弘太郎, 生徒どうして協力して植物を育てることが高校生の心理に及ぼす効果の解析, *Eco-Engineering*, 23(4), 111-121, 2011

- 72) K. Takayama, H. Nishina, K. Mizutani, S. Arima, K. Hatou and Y. Miyoshi, Chlorophyll fluorescence imaging for health condition monitoring of tomato plants in greenhouse, *Acta Horticulturae*, 893(2), 333-339, 2011
- 73) K. Takayama, H. Nishina, K. Mizutani, S. Iyoki, S. Arima, K. Hatou and Y. Miyoshi, Evaluation of photosynthetic functions of tomato plants in greenhouse with chlorophyll fluorescence induction imaging system, *Acta Horticulturae*, 907(1), 337-342, 2011
- 74) K. Takayama, H. Nishina, S. Iyoki, S. Arima, K. Hatou, Y. Ueka, Y. Miyoshi, Early detection of drought stress in tomato plants with chlorophyll fluorescence imaging - Practical application of the speaking plant approach in a greenhouse-, *IFAC Proceedings*, 44(1), 1785-1790, 2011
- 75) 有馬誠一, 上加裕子, 神村泰地, 仁科弘重, 羽藤堅治, 高山弘太郎, 太陽光利用型知的植物工場におけるマルチオペレーションロボットの開発 (農業用ロボット、メカトロニクス), *ロボティクス, メカトロニクス講演会講演概要集*, 1A1-A02, 2011
- 76) 仁科弘重, 有馬誠一, 羽藤堅治, 高山弘太郎, 植物工場技術の研究・開発および実証・展示・教育拠点 (1) 愛媛大学, *植物環境工学*, 24(1), 5-9, 2012
- 77) N. Takahashi, K. Okamura, Y. Matsuda, K. Igari, K. Kato, H. Asao, T. Matsui, E. Takita, K. Sawada, H. Murase, K. Takayama, H. Nishina, Effects of air flow on production of vaccine protein against swine edema disease in transgenic lettuce, *Environmental Control in Biology*, 50(2), 135-141, 2012
- 78) K. Takayama, Y. Miguchi, Y. Manabe, N. Takahashi, H. Nishina, Analysis of Φ PSII and NPQ during the slow phase of the chlorophyll fluorescence induction phenomenon in tomato leaves, *Environmental Control in Biology*, 50(2), 181-187, 2012
- 79) K. Takayama, R.M.C. Jansen, E.J. van Henten, F.W.A. Verstappen, H.J. Bouwmeester, H. Nishina, Emission index for evaluation of volatile organic compounds emitted from tomato plants in greenhouses, *Biosystems Engineering*, 113(2), 220-228, 2012
- 80) N. Takahashi, H. Nishina, K. Takayama, S. Futagami, T. Kamura, T. Nakahara, Analysis for the effect of roof greening in warehouse by mean of simulation, *Environmental Control in Biology*, 51(3), 99-103, 2013
- 81) 有馬誠一, 上加裕子, 河野将大, 仁科弘重, 羽藤堅治, 高山弘太郎, 高橋憲子, S. Dhanashri, 太陽光利用型植物工場の生産性向上のためのマルチオペレーションシステムの開発 (農業用ロボット、メカトロニクス), *ロボティクス, メカトロニクス講演会講演概要集*, 1A1-Q08, 2013
- 82) N. Takahashi, H. Maki, K. Takayama and H. Nishina, Estimation of tomato fruit color change with different storage temperatures at different maturity stages, *Acta Horticulturae*, 1037, 385-390, 2014
- 83) K. Takayama, R. Hirota, N. Takahashi, H. Nishina, S. Arima, K. Yamamoto, Y. Sakai and

- H. Okada, Development of chlorophyll fluorescence imaging robot for practical use in commercial greenhouse, *Acta Horticulturae*, 1037, 671-676, 2014
- 84) K. Takayama, C. Morimoto, N. Takahashi and H. Nishina, Distributions of stem diameter and stem elongation rate in a large-scale tomato production greenhouse -Measurement of thousand plants-, *Acta Horticulturae*, 1037, 721-726, 2014
- 85) 橋田祐二, 高橋昭彦, 下元耕太, 高橋憲子, 仁科弘重, 高山弘太郎, 高軒高温室における長期の加湿処理による飽差環境の違いがパプリカの葉の形態, 光合成機能および収穫物に及ぼす影響, *Eco-Engineering*, 27(3), 91-98, 2015
- 86) Md.M. Alam, T. Tanaka, H. Nakamura, H. Ichikawa, K. Kobayashi, T. Yaeno, N. Yamaoka, K. Shimomoto, K. Takayama, H. Nishina and M. Nishiguchi, Overexpression of a rice heme activator protein gene (OsHAP2E) confers resistance to pathogens, salinity and drought, and increases photosynthesis and tiller number, *Plant Biotechnology Journal*, 13, 85-96, 2015
- 87) 橋田祐二, 高橋昭彦, 高橋憲子, 仁科弘重, 高山弘太郎, 高軒高温室における夜間気温および養液濃度の違いがパプリカの生育と収量に及ぼす影響. *Eco-Engineering*. 28(2). 29-36. 2016
- 88) 下元耕太, 仁科弘重, 高橋憲子, 高山弘太郎, 個葉光合成特性評価のための標準的計測プロトコルにおける気孔コンダクタンスとリン酸律速の影響, *Eco-Engineering*, 29(3), 73-80, 2017
- 89) N. Takahashi, N. Yokoyama, K. Takayama, H. Nishina, Estimation of tomato fruit lycopene content after storage at different storage temperatures and durations, *Environmental Control in Biology*, 56(4), 157-160, 2018
- 90) 下元耕太, 仁科弘重, 高橋憲子, 高山弘太郎, 表計算ソフト Excel を用いた施設生産トマトの年間期待収穫量概算ツールの開発, *Eco-Engineering*, 30(2), 47-58, 2018
- 91) 羽藤堅治, 仁科弘重, 西欧型太陽光植物工場(愛媛大学植物工場研究センター)の可能性, *植物環境工学*, 53(3), 24-27, 2019
- 92) 戸田清太郎, 高山弘太郎, 加納多佳留, 藤内直道, 高橋憲子, 仁科弘重, クロロフィル蛍光画像計測ロボットを用いた日単位の茎伸長計測, *Eco-Engineering*, 32(2), 15-21, 2020
- 93) 戸田清太郎, 高山弘太郎, 加納多佳留, 藤内直道, 高橋憲子, 仁科弘重, トマト個体群を対象とした多元的画像計測装置の開発, *Eco-Engineering*, 32(2), 33-37, 2020
- 94) K. Shimomoto, K. Takayama, N. Takahashi, H. Nishina, K. Inaba, Y. Isoyama, S. Oh, Real-time monitoring of photosynthesis and transpiration of a fully-grown tomato plant in greenhouse, *Environmental Control in Biology*, 58(3), 65-70, 2020
- 95) 磯山侑里, 高山弘太郎, 王震中, 藤内直道, 高橋憲子, 仁科弘重, 高精度蒸散リアルタイムモニタリングシステムを用いたトマト個体群の水ストレス応答の評価, *Eco-Engineering*, 32(3), 55-60, 2020

- 96) K. Shimomoto, N. Fujiuchi, N. Takahashi, H. Nishina, K. Inaba, Y. Romdhonah, K. Takayama, Comparison of photosynthetic rates, transpiration rates, and total conductance of greenhouse-grown tomato plants measured with two open chambers with different ventilation rates, *Journal of Agricultural Meteorology*, 77(4), 270-277, 2021
- 97) F.D. Anggraeni, M.A.F. Falah, N. Khuriyati, H. Nishina, K. Takayama, N. Takahashi, Application of automatic system for water stress treatment to produce high soluble solids tomato (*Solanum lycopersicum* Mill. cv Rinka 409), *IOP Conference Series: Earth and Environmental Science*, 686(1), 12044-12044, 2021
- 98) 稲葉一恵, 藤内直道, 仁科弘重, 高山弘太郎, イチゴ・トマト・パプリカ葉のクロロフィル分析における分光光度計と HPLC の分析結果の比較, *Eco-Engineering*, 33(2), 39-44, 2021
- 99) Y. Romdhonah, N. Fujiuchi, N. Takahashi, H. Nishina, K. Takayama, Empirical model for the estimation of whole-plant photosynthetic rate of cherry tomato grown in a commercial greenhouse, *Environmental Control in Biology*, 59(3), 117-124, 2021
- 100) Y. Romdhonah, N. Fujiuchi, K. Shimomoto, N. Takahashi, H. Nishina, K. Takayama, Averaging techniques in processing the high time-resolution photosynthesis data of cherry tomato plants for model development, *Environmental Control in Biology*, 59(3), 107-115, 2021
- 101) S. Toda, T. Higuchi, T. Sakamoto, T. Kanoh, N. Fujiuchi, H. Nishina, K. Takayama, Deep learning model for monitoring daily tomato plant growth, *Acta Horticulturae*, 1337, 283-288, 2021
- 102) N. Fujiuchi, K. Inaba, T. Kanoh, Y. Romdhonah, S. Toda, K. Shimomoto, Y. Isoyama, H. Nishina, K. Takayama, Method to calculate net CO₂ exchange rate of whole plants under continuously increasing or decreasing CO₂ concentrations in a greenhouse using a real-time photosynthesis and transpiration monitoring system, *Environmental Control in Biology*, 60(1), 13-21, 2022
- 103) 加納多佳留, 戸田清太郎, 海野博也, 藤内直道, 仁科弘重, 高山弘太郎, トマト個体群を対象としたつり下げ型多元的植物生体画像情報計測ロボットの開発—仕様と動画取得安定性の評価—, *Eco-engineering*, 34(2), 37-44, 2022

受 諾 書

第6号様式

令和 5年 7月 19日

愛媛大学学長選考会議議長 殿

受 諾 書

国立大学法人愛媛大学学長選考に係る学長候補者として選出された場合は、これを受諾します。

氏 名 仁 科 弘 重

所 見

所 見

<p>学長候補適任者氏名</p>	<p>仁 科 弘 重</p>
<p>このたび、すべての学部から、次期の学長候補適任者としてご推薦いただきました。現在学長を拝命している者にとって、このことは、大変な光栄であると同時に、一層重い責任に身の引き締まる思いであります。</p> <p>地球温暖化とそれによる気象災害の激甚化、コロナ禍、ロシアによるウクライナ侵攻によるエネルギーや食料の供給網の不安定化など、世界全体で取り組むべき課題がある一方、少子化による人口減少と長寿命化による高齢労働者増加が進むわが国が取り組まなければならない課題としては、①産業構造の変化による社会人の転職・起業機会の拡大と労働生産性の向上、②イノベーションによる新技術開発力の再構築、③地域のサステナビリティとレジリエンスの確保、④国際性をもった人材の育成と国際競争力の強化などがあります。</p> <p>上記の状況を踏まえて、地域にある国立大学である愛媛大学として、今後取り組むべき課題としては、下記のようなものが考えられます。なお、少子化によって、教員、職員とも応募者がさらに減少することが予想され、中期的には、教員、職員とも少数精鋭の体制にならざるを得ず、その状況においては、不断の業務見直し、DXの推進、AIの活用も含めて労働生産性を上げ、各人の給与は上げるべきと考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 若年人口の減少による入学定員削減の検討 (2) 社会人を対象としたリカレント／リスキリング教育の拡充 (3) 社会人、理系女子学生などダイバーシティな人材の本格的受け入れ (4) 高校生など次世代人材の育成（愛媛県立高校再編への協力を含む） (5) 基礎から応用まで多層な研究力を活かした産業イノベーションへの貢献 (6) 知的財産を活用した外部資金の獲得 (7) 大学経営戦略の構築 	

- (8) 地域のサステナビリティ及びレジリエンスへの係わり
- (9) 日本人学生の外国派遣と留学生の受け入れ
- (10) デジタル情報人材の育成
- (11) カーボンニュートラルの推進
- (12) SDGsの推進
- (13) DXの推進、AIの活用
- (14) 事務部門の見直し

※：(2)については、今後は、一生学び続ける、すなわち「大学と社会を往還する」学びが必要となるため、本学の卒業生がリカレント／リスキリング教育を受ける際の優遇措置を検討したい。また、プログラムの内容としては、転職、起業を目的とした「若干専門性の高い」ものと、地域や文化などに関わるものに分けて考えたい。

全世代対応型の「地域における知の拠点」として、今後も、愛媛大学が存在し続けるためには、文系から理系まで幅の広い学術領域に立脚する7学部は維持しながら、一方では、現在の4機構が担っている機能を、「社会や地域から期待される機能」「大学の戦略的経営のために必要な機能」として、「未来価値創造機能」「先端学術研究機能」「協働研究・社会実装化・知財管理機能」「地域サステナビリティ機能」「人材育成・アップグレード機能」「国際連携推進機能」「デジタル情報人材育成機能」などに再編することも、視野に入れるべきと考えます。「未来価値創造」は、文系から理系まで幅の広い有志の集まりで議論したいと考えています。

最後に、私たちは、「新たな時代でも必要とされる大学に変容する」という理想と意思をもつべきと考えます。所属する組織、部署によって各人が担うべき職務、役割は大きく異なりますが、業務を遂行する上でお互いを「リスペクト」する気持ちを大切に、愛媛大学教職員一丸となって、同じ理想に向かって進んでいきたいと考えます。

なお、これまでの2年4カ月の間に行わせていただいた項目の一部を、下記に掲載します。

- ① EU. Regional Commons の開設

- ② 愛大学生コンピテンシーの見直しと、「未来思考支援科目」の開講
- ③ 一般社団法人四国地域大学ネットワーク機構による「連携教職課程」の開設
- ④ 大学院「医農融合公衆衛生学環」「地域レジリエンス学環」の設置
- ⑤ ダイバーシティの推進（ダイバーシティ担当副学長の配置、「学長戦略・若手教員等ポジティブ・アクション事業」などの実施、ジェンダー協働推進センターの設置）
- ⑥ 新型コロナウイルスによる感染症への対応（ワクチンの大学拠点接種の実施、学長メッセージの発出（17回））
- ⑦ 構成員との対話（学長・理事と各学部との意見交換、誰でも参加してよい「キャンパスミーティング」の開催（5回））
- ⑧ 総合戦略府の設置と、学長室機能の強化（戦略チームの新設）
- ⑨ 文部科学省等大型事業への申請：地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業申請・採択（約20億円）、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業申請（約55億円）、高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援申請・採択（約10億円）
- ⑩ 国立大学協会での活動（理事（会長指名）、教育・研究委員会副委員長、教育・学生小委員会委員長、化学物質の管理体制強化に関するWG座長）